

[別紙 2]

論文審査の結果の要旨

申請者氏名 スパワン ニンカムハン

本研究は、タイの米輸出産業を対象として、産業組織論やミクロ経済学の理論を援用しながら、輸出産業の市場構造の特徴とその変化をまとめ、その上で米のマーケティングの効率性について規格別に分析を行ったものである。分析の対象期間は、データが利用可能である 1980 年代後半からの 16 年間としている。

本研究の主要な課題は次の 2 点に設定されている。

第 1 は、世界の米市場と比較を念頭におきながら、産業組織論的な分析に基づき、タイ米輸出セクターの産業構造の特徴とその変化について考察することである。

第 2 は、共和分分析モデルを用いて、米の国内卸売市場と輸出市場の統合度について数量的に検討することである。市場統合度分析は市場の効率性を議論する際に頻繁に使われる手法であり、タイの米市場についても同じ手法を使った先行研究もある。ただし従来の研究では平均価格データを使った分析のみであり、米市場の商品細分化が進行している状況下では適切とは言い難い。この論文では米の規格別に市場統合度を検討している。

第 1 の研究課題に関して、まずタイ米輸出部門における市場構造は世界の米輸出市場と類似した寡占的な構造を持っていることが確認される。続いて、輸出産業の集中度やハーフィンダール・ハーシュマン指数が計測され、タイ輸出産業は 1977 年から 1983 年には低位の集中度による寡占的状况、1990 年代以降はやや集中度の高まった寡占的状况であったことが明らかになった。またタイ米産業では継続して新規参入者が現れており、政府による規制や参入コストは参入障壁にはなっていない。これらのことは、タイの米輸出産業の寡占度が高まり、少数の大規模輸出業者が支配的であるという点が強まっているものの、なおダイナミックな性格を有することを示すものである。

第 2 の課題については、まず米市場における商品細分化の状況を確認する。輸出市場が

4つのサブ市場（香り米、最高級米、高級米、中級および低級米）に分けられ、相互の価格関連性が共和分分析によって検討された。分析結果によって、最高級米市場は他のサブ市場と明確に区分され、また香り米も他のサブ市場から区分されていることが判明した。一方で、高級米、中級および低級米の市場では、市場がかなりの程度において統合されていることが確認された。また、1995年以前とその後の状況を比較することによって、最高級米と香り米が他のサブ市場との統合性を薄めている傾向も明らかになった。

以上の分析を踏まえ、米の規格別に、国内卸売市場と輸出市場の間での市場統合度が計量的に分析された。ここでは多数の米の規格を、高品質、中品質、低品質という3つに代表させ、それぞれのサブ商品に共和分分析の手法が適用された。分析結果は、市場の統合度や市場の調整速度は、米の規格別に異なっていることを示すものである。例えば、香り米と最高級米については卸売市場と輸出市場はそれほど統合されている訳ではないが、他方で、他の米についての両市場はかなり統合されていることが確認された。

また米市場の統合度に関するカテゴリー間異質性をもたらしている要因が検討されているが、この論文で指摘されているもっとも重要な要因は、輸出業者が最高級米などの輸出占有率が高い規格品について大規模で太い流通経路を作り上げており、卸売市場とのリンクを必要としないことであろう。

以上、本研究はタイの米輸出産業の産業組織論的アプローチによるその産業構造の特徴と変化を的確に指摘し、更に米の規格ごとに卸売市場と輸出市場の市場統合度に関する新しい分析をおこなった。導かれた分析結果からは、これまでの研究では見られない知見も得られており、本研究における学術上の意義は大きい。よって審査委員一同は、本論文が博士（農学）の学位を授与するに値するものと認めた。